

平成 28 年度 (2016) 第一回 GBIF 日本ノード運営委員会議事録

日時：平成 28 年 11 月 22 日 (火) 13:00-15:00

場所：国立科学博物館 上野本館 大会議室

参加者：松浦 (委員長)、大原 (副委員長)、伊藤、大澤、川越、藤倉、星、細矢、矢後、山崎 (剛)、山崎 (由) の各委員

オブザーバー：

深川 正夫 日本医療研究開発機構バイオバンク事業部基盤研究課

笹土 隆雄 日本医療研究開発機構バイオバンク事業部基盤研究課

美和 秀胤 環境省自然環境局生物多様性地球戦略企画室・係長

宮田 亮 環境省自然環境局生物多様性センター 技術専門員

戸津 久美子 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター・高度技能専門員

真鍋 真 国立科学博物館標本資料センター コレクションディレクター

神保 宇嗣 国立科学博物館 動物研究部 陸上無脊椎動物研究グループ・研究主幹

海老原 淳 国立科学博物館 植物研究部 陸上植物研究グループ・研究主幹

中江 雅典 国立科学博物館 動物研究部 脊椎動物研究グループ・研究員

福田 知子 国立科学博物館 植物研究部 支援研究員

欠席者：城石・山野委員 (委任状あり)、三橋委員

議事録作成：国立科学博物館 福田 知子

報告事項

1. 国立科学博物館 (細矢)

- 1) 第 27 回自然史標本データ整備事業による標本情報の発信に関する研究会『自然史標本情報発信を理解するための基礎知識』(2016 年 6 月 10 日、国立科学博物館日本館講堂)を開催した。
- 2) サイエンスミュージアム・ネット (S-Net) の「自然史標本情報検索システム」の参加機関数・データ件数は、85 館 (大学 15 館、博物館 66 館、研究所 4 館)、約 449 万件となった (2016 年 11 月.現在)。
- 3) GBIF の要請に基づきデータ提供館に CC ライセンスの設定を依頼し、ほぼ全館について回答を得た (282 データセット中 CC-BY217 館、CC-BY-NC41 館、CC03 館、保留 13 館、データ取り下げ 8 館)。
- 4) 研究員・学芸員データベースは、502 名となった (2016 年 11 月.現在)。
- 5) S-Net のパンフレットを 8 月に改訂した。広報普及活動として各種会合で JBIF, S-Net のパンフレットを配布した。

2. 東京大学 (伊藤)

- 1) 日本環境アセスメント学会 (2016 年 9 月 10 日、中央大学、東京) において GBIF の取り組みの紹介、生物多様性情報に関する国際標準の普及活動を行った。また、データソースとしての連携について意見交換した。

日本植物学会琉球大会（9月沖縄）のシンポジウム「希少植物・絶滅危惧植物保全のフロンティア：実践から見えてきたもの」にて「域外保全データベースとネットワークの構築」の発表を行った。

- 2) 日本産維管束植物のチェックリスト (GreenList: <http://www.rdplants.org/gl/>) var.1.01 を作成公開した。
- 3) これまで作成した「日本昆虫目録」などを利用し、チョウ類幼虫のホストリストに関するデータペーパーを出版した。
- 4) GBIF プロバイダーのデータセット利用の際のライセンスや引用形式を調査した。CC0(16,916,774件)、CCBY3.0,4.0(5,166,592件)、accessRights に VertNet の利用規定を引用しているものが多かった (219,861,785件)
- 5) 以下の環境省生物多様性センター保有の観察情報を整備、一部 (①、③、④) はすでに登録公開済み。
 - ① 第1～45回ガンカモ類の生息調査： 343,063件
 - ② 定点調査 (シギ・チドリ類) 79,745件
 - ③ モニタリングサイト 1000 里地里山調査 (鳥類)： 103,069件
 - ④ モニタリングサイト 1000 里地里山調査 (哺乳類)： 24,860件
 - ⑤ 第2～5回自然環境保全基礎調査植生調査 68,748件
 - ⑥ 第6～7回自然環境保全基礎調査植生調査 151,657件
- 6) JBOLI WEB サイトの定期的な更新を行った。JBOL-DB のサーバーメンテナンスを行っている。

3. 国立遺伝学研究所 (山崎由)

- 1) サーバマシンおよびポータルサイトをチェック、監視中。IPT2.3.2 運用。
- 2) 国際 GBIF のニュースレターの和訳および e-book を継続公開
- 3) GBIF が提供する Web service API のチュートリアルを作成した。(公開済)。
- 4) GBIF への登録数はデータセット 35、データ 114 万件となった(2016年11月22日現在)。

4. ワーキンググループ

- 1) 第7回アジア地域会合 (2016.6.27-7.2) に参加。
 - ・チェックリストの統合 (中国科学院による)、各ノードから IPT により出版することとした。
 - ・BIFA (アジア生物多様性活動補助資金) 第一期の活動 (生物多様性情報カリキュラム、ベトナムのシステム確立)
 - ・次期アジア地域戦略
 - ・次期アジア代表 (細矢) 副代表 (Yu-Huang Wang)
- 2) GB23 (2016.10.24-26 ブラジル) に参加、意見交換した。
- 3) J-OBIS とのデータ共有についての話し合い; 各種学会・会合への参加 (日本地球惑星科学連合、ANRRC、生命医薬情報学大会、トーゴの日、NORNAC 会合)
- 4) JBIF ポータルサイトへの文書追加公開など。

5) GBIF の生物多様性データ回収促進に関するタスクフォースによるアンケートの拡散・回収と報告。

審議事項

1. 国立科学博物館（細矢）

- 1) 研究会・ワークショップを開催する
 - ・分子生物学会 フォーラム（11.30）、NBRP ブース（11.30-12.2）
 - ・ワークショップ「21世紀の生物多様性研究（通算第11回）」（12.3）
 - ・自然史標本情報の発信に関する研究会（2017.1.17）
- 2) S-Net のデータ収集を継続、体制の見直し。
- 3) 研究員・学芸員データベースのリソース収集に努める。
- 4) 広報、データ提供への理解促進、新規コレクション獲得に努める。

2. 東京大学（伊藤）

- 1) 国内外の会議・シンポジウムへの出席。日本生態学会東京大会（3月東京）のシンポジウム「Big Data Approaches to Ecology and Evolutionary Biology」にて、「地球規模ネットワークによる生物多様性ビッグデータの集積・提供・利用」の発表を予定。
- 2) 生物分布情報（観察・観測データ）の収集・電子化を行う。

3. 国立遺伝学研究所（山崎）

12月末締切の第四期 NBRP への応募準備

4. ワーキンググループ（細矢）

- 1) GBIF 戦略計画・実施計画策定に伴い、国内戦略案を提案した。特段の反対はなかった（添付）。
- 2) S-Net/GBIF 関連集会を実施する。
- 3) GBIF ノード委員会・科学委員会合同会合（2017.2.7-8）に出席する（コペンハーゲン）

<質疑応答>

1. 来年度の NBRP 第4期への申請について

- 1) 公募による採択となる。
- 2) これまでの活動については全体として良い評価を得ているが、定量的な目標が必要、利活用の促進、認知度向上の必要などが指摘された。
- 3) 申請は GBIF, GAIN も含む現在と同じ体制で行う予定。
- 4) AMED より「ライフサイエンスの基盤に寄与し、活用に結びつくものを」という要請があった。

「定量的な目的」、とは？

- ・目標・達成値のように具体的な数値で示す必要がある。
- ・段階を追った目標を実現済パーセントで書くとよいのでは？

- ・データの質、緯度経度やその精度などを指標にできないか？
 - ・進んでいる分類群（植物・魚類など）を指標にして達成度を示すことは可能。
 - ・利活用の度合いも重要。
2. GBIF の次期戦略案を紹介の上、国内戦略案（添付）につき会に諮り、承認を得た。
- ・GBIF 本体の戦略計画に沿って、地域・国内戦略を合致させるべきであるが、日本では NBRP 事業の一部であることも意識する必要がある。
 - ・ワーキンググループの出版物などは GBIF のマンスリーレポートのように JBIF の HP などに載せるとよい。
3. 分類群について
- ・データの分析によって、分類群ごとのデータギャップを把握し、それをデータベースの向上に役立たせるというプロセスを繰り返す必要がある。
 - ・分類群の特徴を意識するとよい。鳥・チョウは社会的ニーズが高い。また、維管束植物・魚類はチェックリストがある、など、モデル分類群として使える。
 - ・化石データは？
 - GBIF では入れられる。S-Net は項目を準備中。
 - ・人骨データ
 - 倫理的問題があるなどの点で、他の自然史データとは異質。
 - ・鳥データ
 - 県単位でまとまっているものといないものがある。
 - 観察データはたくさんあるが、出してもらいにくい。データとして出してもらえたものは多様性センターのデータが初めて。
4. J-OBIS とのデータ共有について
- 1) 共有されたデータは技術的に対応付けられるようにする。
 - 2) どちらもライセンスは CC ライセンスで、データ発信は IPT で行うので、問題は少ないはず。データ提供者には説明をきちんとするとともに、データ提供者に負担をかけないようにすることが必要。
5. 観察データ
- 多様性センターや他省庁に、大量のデータを依頼している。博物館・地域のデータの掘り起しも重要。
- 西日本を中心とするタンポポ調査のようなデータも観察データとして取り込める。
6. 希少生物のデータベース
- ・データベースとして公開するのは難しいが、データとしては必要（アメリカなどでの整備例）。
 - ・データベースとして公開する場合も、そのサイトにアクセスできる人を資格制にして制限公開とする方法がある。

7. その他

● 広報

GBIF のニューズレター (GBITS) は廃止の予定。代わりに Webseminer (英語) が始まる。

以上